



平成29年11月

緑の学び舎

ニュースレター



葛飾区立葛飾小学校



瑞穂町立瑞穂第四小学校

特集

学校が芝生化される様子を紹介

- 小中一貫校における芝生化の紹介
- 芝生の専門家「ひとことアドバイス」
- 校庭芝生リーダー養成講座
- あっばれ！親方・匠



平成29年度 第1回

「校庭芝生リーダー養成講座」 を開催しました。



開催日時：平成29年6月17日
会 場：葛飾区立中之台小学校
講座運営：公益財団法人都市緑化機構

東京都では、校庭芝生の維持管理に携わっている教職員や地域の方を対象に、芝生管理のスキルアップを目的とした「校庭芝生リーダー養成講座」を実施しており、葛飾区立中之台小学校で行われた本年度第1回目の講座では、約30名の参加者が集まりました。

講座は座学と実習の2部構成で、前半の座学では芝生の種類や生育と気温の関係といった基礎的な知識から、芝刈りや施肥といった維持管理のポイントについてスライドによる解説が行われました。

後半は中之台小学校の校庭で、芝刈りや施

肥、補植の実技講習、ポット苗作りと、中身の濃い講習となりました。

実技講習では、芝刈り機などの機械の構造や実際の使用方法、メンテナンスについての注意点など普段の活動に役立つ知識が得られ、施肥や補植の際には「肥料はどの程度の量をまけば良いのか?」「補植の間隔はどのくらいが適当なのか?」など疑問点について積極的に質問がありました。

参加された方々の中にはこれから芝生の導入を考えている方もいて、校庭芝生化に向けた準備につながる講座となりました。



学校が芝生化される様子を紹介

昨年度、校庭を芝生化した二つの学校にその様子についてお話をうかがいました。



葛飾区立葛飾小学校

全面芝生の第二校庭はビオトープも備えたワクワク空間

児童数：207名（平成29年5月1日現在）
芝生化面積：2,208㎡
芝生が完成した時期：平成28年度

芝生化を計画した時期、工事期間について

前任の校長の時に第二校庭の整備計画が始まり、実際に計画が動き始めたのは、私が赴任した平成25年です。元々保健所のあった跡地の有効活用として始まった計画なので、既存の建物の撤去や土地の整備にとても時間が掛かりました。平成27年の12月からスプリンクラーの配管や土を入れる工事が始まり、芝生を張った後も養生期間があったので、芝生開きを行ったのは昨年8月です。第二校庭が整備されて1年経ったところですね。



浅井正秀 校長先生



工事中大変だったことや苦労したことは

第二校庭の芝生化整備工事だったため、ほとんど影響はなかったように思います。本校には現在の第一校庭が元々あるので、他の学校では調整が難しい休み時間の外遊びや体育の授業なども通常通り行うことができました。実際の芝生の工事が始まる年に業者の入札が不調に終わり、一年間計画が進まなかったことがありましたが、それ以外は学校運営に大きな影響が生じることもなく工事を終えることができたと思います。

芝生化のメリットとこれからの展望について

芝生の上ではほとんどケガがないのでタグラグビーなどのかなりハードな授業もみんなで楽しく行っています。加えて、低学年の生活科では「虫と仲良し」という授業があり、みんなで虫探しをしたりしています。ビオトープと合わせて、環境について学ぶにはとても良い空間ができました。今後は、芝生を生かした、みんなが一緒になって楽しめる催しができればと考えています。

葛飾小学校の芝生化の様子



平成27年4月 芝生化前



平成28年8月 安全祈願祭



平成28年9月 生きものさがし



平成29年7月 体育授業（タグラグビー）



平成29年7月 ビオトープの学習



平成28年10月 ビオトープ造成

瑞穂町立瑞穂第四小学校

工事期間中は隣のグラウンドが大活躍。完成後は多彩な「芝体験」を企画しています。

児童数：450名（平成29年5月1日現在）
芝生化面積：4,264㎡
芝生が完成した時期：平成28年度

芝生化を計画した時期、工事期間について

平成27年度に芝生化を計画し、平成28年度の夏休み前から工事に入りました。本校は5月の末に運動会を行い、その後体育の授業も水泳に移行するので、比較的校庭を使用する時間が少ないこの時期を選びました。10月に一度芝生開きをしたのですが、冬芝の養生のためにすぐには使用せず、実際に子供たちに芝生を開放したのは11月の中旬です。夏休み中に集中して工事を進めたので、工事期間は短かったです。



石坂隆文 校長先生



工事中大変だったことや苦労したことは

工事期間中は校庭が使用できず、休み時間の遊びが制限されました。幸い学校の隣の町営のグラウンドをお借りすることができたので、教員が安全管理をしながら遊ばせました。体育の授業も、一時期町営グラウンドをお借りし、工事によって支障が出ないように工夫しました。極力支障が出ないように配慮したつもりですが、当時の6年生に関しては、芝生が完成するまで校庭が使用できず、芝生が完成したらすぐに卒業という状況で非常に残念でした。

芝生化のメリットとこれからの展望について

今年の1月に、手作りのたこを親子で揚げるたこ揚げ大会を冬芝の上で行いました。また、四小グリーンサポーターとPTAの協同で、親子で芝刈りと施肥を行う「芝体験」を企画しました。子供でも簡単に押せる小さな芝刈り機があるので、子供たちも楽しんでくれたようです。本校は今年が開校50周年に当たりますので、それに合わせるような形で芝生化できたのも良いタイミングだったと思います。まだ一年目なのでこれからの活動次第ですが、色々なことが積み重なって、伝統として根付いてくれればと考えています。

瑞穂第四小学校の芝生化の様子



平成28年4月 芝生化前



平成28年8月 芝生化工事中



平成28年10月 芝生開き式典



平成29年7月 芝刈り体験



平成29年5月 運動会



平成29年1月 たこ揚げ

小中一貫校における芝生化の紹介

町田市立小中一貫 ゆくのみ学園（大戸小学校・武蔵岡中学校）

芝生を介した子供たちの交流が独自の文化を育みます。

児童数：大戸小学校 151名（平成29年5月1日現在）
生徒数：武蔵岡中学校 84名（平成29年5月1日現在）
芝生化面積：4,703㎡
芝生が完成した時期：平成24年度

小中一貫校としての特長

全校生徒が参加するレクリエーションではみんなが芝生の上でゲームを楽しんでいますし、昼休みになると小学生に混じって中学生の子供たちも遊んでいます。時々高学年の小学生が中学生にサッカーで勝負を挑んだりしていますが、これらは小中一貫校だから生まれる年齢を超えた交流で、子供たちが集う場所として芝生化はとても良い効果を及ぼしています。



守屋裕一 校長先生



全校生徒が参加してのレクリエーションと雑草とり



楽しみながら芝生の維持管理を

最初は地域の方がボランティアで来てくれていたのですが、もう少し自分たちで責任を持ってやって行こうということで、去年の4月、渡辺好造副校長が「親子の会」に声を掛けて日曜日の午前中に芝生の手入れを手伝ってもらうようになりました。ポイントは、楽しみながら。業者任せにしないで、自分たちであれこれ知恵を出し合っています。



いつの間にか子供たちの体力がアップしていました！

市教育委員会から「全国体力テスト」で本校の小学生の体力が向上してきていることを教えてもらいました。走力やジャンプ力、立幅飛びがグンと伸びている。これは、日常的に芝生の上で遊んでいることで、身体全体の調整力が高まるということらしいですね。芝生化以前は保健室がかなり混雑していたのですが、思い切り遊べるということ、転んでもほとんどケガをしないこと、緑の風景に自然と癒されること、色々な要素が重なって保健室に行く子が本当に少なくなりました。芝生化によって目に見えない様々な効果が生まれていますし、それが学校運営の大きな推進力になっていると思います。



芝生の専門家「ひとことアドバイス」

都内の公立小中学校等から様々な相談を受けて、アドバイスや講習会を行っている芝生の専門家。芝生の維持管理についてお話を伺いました。

芝生の管理で重要なことは？

芝生の管理で重要なことは時期をずらさないことです。「適切な時期に適切な管理作業をする」ということですね。気候に左右される部分が多いのですが、時期によってできることとできないことが出てきます。例えば、春から夏に掛けて多くの学校が補植を行います。ポット苗の場合、梅雨明け前に植え付けるとすると、逆算して5月中旬にポット苗を作っておくことが理想です。それが6月以降になると、不利な要素が増えてきます。そのようなスケジュール感を持つことが重要です。

今の時期にやっておくべきことは？

12月から2月にかけては、一番芝生に手の掛からない時期ですから、これまでのシーズンを振り返っての総括と来年の行事や管理作業の計画をするチャンスです。来年度にやりたいこと、やらなければならないことを、芝生管理のオフシーズンに計画することで、適切な時期を逃さず作業できるようになります。この時期に相談をしてもらえれば、次のシーズンにいつ何をやれば良いかということが計画でき、スムーズな動きができます。

芝生の管理そのものはそれほど難しいことではないので、皆さんが無理なく活動できるような計画を立ててください。

株式会社 緑の風景計画
専務取締役 植栽技術部長

よしおか としや
吉岡 俊哉 さん



あっぱれ!
親方・匠

今回お訪ねしたのは、葛飾区立中之台小学校の佐々木さんと赤松さん。平成28年度にそろって親方と匠に認証されたお二人に、芝生についての想いを語っていただきました。

中之台小学校で校庭の芝生化が計画されたのは、6年ほど前。その頃学校は児童数も少なく統廃合の危機にあったそうです。当時PTA会長だった赤松さんは、この事態を打開するための一つとして校庭の芝生化を学校や区に要望します。要望を受けた学校は、地域応援団に対して芝生の維持管理のために協力してほしいという要請を行います。その地域応援団の団長が佐々木さんです。以来、計画段階を含めずっと二人三脚で中之台小学校の芝生を見守ってきました。芝生化が完了した後は、グリーンリーダーの赤松さんが絶えず校庭の芝生に気を配り、佐々木さんが地域との連携を密に保つという役割分担をされています。「周りの皆さんが協力的で、地域のつながりを大切にしてくれています。」と語ってくださいました。

「中之台小学校の特徴は、芝生を休ませない。何があっても、子供たちに使ってもらおうということ。その代わりに、補修は僕たち大人が責任を持って行う。ここの芝生に沿った手入れの仕方があるんですよ、それを4年くらいですが、自分たちで試行錯誤しながらやってきています。」と赤松さん。

校庭が芝生化されて4年、いまでは区の抽選校となるほど児童数も増えた中之台小学校。ここまで続けてこられた理由をお聞きすると、「愛着ですね!」という言葉が返ってきました。「子供たちが芝生の上で元気にスポーツをしたり遊んだりしているのを見ると、傷んだり穴があいたりしていたらもっと綺麗にしてあげたいなという気持ちになるんですよ。そういう気持ちの積み重ねが今日まで続いてきた理由でしょうね。みんな子供が好きなんですよ。」

そうおっしゃるお二人は、今日も地域の方々や子供たちと一緒に、芝生の補植に汗を流していらっしゃいました。



写真左：親方
葛飾区立中之台小学校地域コーディネーター
佐々木修二郎さん
写真右：匠
葛飾区立中之台小学校グリーンリーダー
赤松史貴さん



校庭芝生の親方・匠とは？

東京都教育委員会は、校庭芝生の維持管理に継続的に取り組み、多大な貢献をされた方で、体制の構築や取りまとめに尽力された方を「親方」、技術的な指導に尽力された方を「匠」として認証しています。